

よりん彩

第39号

2012.3

固定的な意識に

とらわれない生き方



ーパパと子どもの絵本ライブー
よりん彩活動支援事業補助金公開講座

特集 固定的な意識にとらわれない生き方

- ◆選ぶ職業 やりがいと意欲を持って【坂根良和さん】 2P
- ◆今、保育園が楽しい！【新 茂雄さん】 3P
- ◆父子家庭から政策の提言へ【片山知行さん】 4P
- 輝く人【丹松美由紀さん】 5P
- 男女共同参画推進企業《アサヒコンサルタント(株)》《鳥取県社会福祉協議会》… 6P
- よりん彩相談室・よりん彩情報ライブラリー 7P
- 平成 24 年度事業のお知らせ 8P

目次

鳥取県男女共同参画センターの愛称「よりん彩」とは、「ちょっと立ち寄ってくださいな」という意味のことばで、気軽に利用していただきたい、老若男女いろいろな色(彩)を寄せ合って男女共同参画社会づくりの輪が広がってほしいという願いが込められています。

固定的な意識にとらわれない生き方

特集



選ぶ職業 やりがいと意欲を持って!

さかね よしかず
坂根 良和さん (国立病院機構 鳥取医療センター 管理栄養士)

入院患者さんへの食事提供、入院・外来患者さんの栄養管理や栄養指導、またご家族へ退院後の食事指導などを行っている管理栄養士です。

この職業を選んだのは?

母が栄養士をしていて、食べることへの関心が向く家庭環境にあり、将来の職業選択の一つに、食に関することがあったと思います。さらに高校時代にバレーボールをしていて、よく読んでいたバレーボール雑誌に食事の取り方など、スポーツ栄養について書いてあったのを覚えています。その高校時代に、日本のバレーボールチームが負けてしまい、オリンピックに出られない年がありました。自分が栄養士になって選手の体づくりをサポートをしたいと考えたのがきっかけで、高校卒業後の進路には、栄養士課程のある学校を選びました。

家族や周りの反応は?

家族も学校も自分になりたい職業を目指すことに賛成し、応援してくれました。

卒業後、公立学校栄養職員となり、当時3人目の男性学校栄養士として働くことになりました。大学でも、男性が2割と少なく、鳥取県でも男性栄養士は少なかったため、保護者や教員には関心をもってもらえたようでした。たとえば、食・栄養について考えてもらう時のきっかけとして、なぜ、自分が栄養士になったかを話すことで、興味を持って聴いてもらえたと思います。

ただ、病院勤務となって感じたのは、高齢の方への食事指導をするときに、どこか硬さが感じられるのか、

一歩ひかれて、積極的に聞いていただけないような雰囲気を感じることもありました。自分を知ってもらい信頼関係を築くことが大事だと思っています。

どんな思いで仕事をしていますか?

食べることはだれにとっても、大切な生活の一部。だからこそ食べることを楽しんでほしいと考えています。

特に何らかの疾患を持っている方々に接している今は、食を制限する必要があり、食に対して常に不安を持って生活している方が多くおられます。医師や看護師、リハビリスタッフや調理師などと連携を取りながら、少しでも楽しく「食べる」ことができるよう、患者様の不安を一緒に共有して、取り除いていける自分でありたいと思います。

いま、いかにストレスや制限を感じることなく食べてもらえるかの策を練ることが楽しいと感じています。まだ、日々勉強中ですので、反省することも多々ありますが、笑顔に触れられたり、栄養士が関わることで病気の回復につながったり、「ごちそうさま」といわれたその一言が達成感につながっています。

食は最後まで、一人一人についていくもの。この仕事は、食事を通して人を体から笑顔にできる職業だと思っています。



鳥取県男女共同参画意識調査（H21）によると、男女の不平等を様々な生活の場で感じていて、「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という、性によって役割を決める考え方に「反対」と答えている数値が少しずつ増えています。

今回は固定的な意識にとらわれず、「職を選ぶ」（坂根良和さん）、「家事育児を楽しむ」（新茂雄さん）、また、「父子家庭から政策への提言」（片山知行さん）という視点でそれぞれの方の体験を伺いました。



今、保育園が楽しい！



あたらし **新** しげ お **茂雄さん**（わかば保育園 鳥取市保育士）

4歳と10歳のお二人のお子さんのお父さんで、10年前に育児休暇をとり、現在も保育園に勤務しています。

10年前を振り返って いかがですか？

実は、育休を取った3か月という期間は、思った以上のギャップがあり、一言で言うなら、「大変」「しんどい」という感覚が強かったことを今でも思い出します。

たとえば家事、育児をすべて担うこと。つまり今までのように料理を趣味ではなく、日々の必要な仕事としてしなければいけないですよ。それに子どもは、夜泣きをして日中もなかなか寝てくれなくて、全く自分の時間が作れない状況でした。たまに公園に連れて出ても、お母さんばかりで話しかけにくかったです。知り合いが出来たり、同じようなお父さんがいれば違っていたのかもしれませんが・・・。

でもその経験が、親としても、保育士としても、子どもへの思いや関わり大切さを実感することにつながったのだと思います。育児に対する認識が変わりました。

楽しいだけでは子育てはできないとは思っていましたが、大変だからこそ子育ての重要さを感じられるのですよね。今は、育休をとって本当に良かったと思っています。何よりも、心からかわいい子どもと一緒にいることができるうれしさがあります。自分の子だという実感があって、いつか離れていくのかと思うとさみしくなります。

また、家事を段取り良くこなすようになり、今も役に立っています。

「イクメン（育児をする男性）」 という言葉をよく聞きますが、 どう思いますか？

鳥取での女性の就業率は高いです。それぞれの家庭の状況はあると思いますが、女性だけが家事をするのではなく、男性も家事、育児をすべきで、それがごく普通のことになると、イクメンという言葉も無くなりますよね。

自分の職場から各家庭をみると、男性の役割は大きく、イクメンの存在が今は必要だと思っています。でも本当は、父や母ということではなく、親として当たり前のこととして関わられるようになることが大切で、子育ての責任をしっかりと持っている大人になっていきたいです。

そして最後に

今保育園が楽しい！日々色々な『大変』が起こるのですが、子どもたちは、必ずそのあと成長するんです。その成長を見ることや保護者の方々と共有できることにやりがいを感じています。

子育てを通して発見がたくさんあったと笑顔いっぱいのメッセージをいただきました。



父子家庭から政策への提言へ

かたやま ともゆき
片山 知行さん (NPO 法人全国父子家庭支援連絡会)

2009年11月に設立した父子家庭を支援することを目的とした日本初の全国組織の代表です。

2011年11月シングルパパ支援全国キャラバンで「シングルパパ・プレゼンツ～パパの子育て！笑顔で子育て！～」というテーマで鳥取でも基調講演をされました。

活動のきっかけは？

一人親家庭になり、子育てを当たり前にしなればいけない環境にある自分にとっては、近ごろイクメンなど騒いでいるが、本当にしてほしいことを当たり前にしようとしているのか？と疑問に思っていました。

しかし、どうせ、当たり前にしなればいけない育児、子育て、家事、そして仕事ならば、それらが出来る、かついい、スーパーな男になろうと思うようになりました。

自分は、父子家庭になって初めて、今まで妻をしっかり見ていなかったことに気づきました。実家の母も病気になり、家事がこんなに大変なことだと実感したのです。

灯油缶を運ぶこと一つを取ってみても、家事の大変さを感じるものの、父子家庭の父親は、普段から近所の人間関係も少なく、孤立してしまうという現実を痛感していました。

ネットを通じて、「離婚」の調停などのフォローもしていたある日、リストラ、家事、子どもの病気などで悩み、「死にたい！」というメッセージが届きました。ハローワークに行くことや、市役所等に出かけて支援を受けることなど、アドバイスをしましたが、現実、父子家庭へのセーフティーネットが無いことがわかってきました。このままではいけない！男性が手当を求めるのも有りだ！…ということで、国に要求する活動を始めたのです。



今までの成果は？

一筋縄ではいきませんでした。さまざまな方の支援を受け、母子家庭にのみ支給されていた児童扶養手当を、困窮する父子家庭にも支給するよう求めてきた結果、児童扶養手当法一部改正にこぎつけました。2010年、全国の父子家庭に、児童扶養手当の支給が開始されました。

さらに、父子家庭の就労支援や、遺族年金問題、震災父子家庭問題などについて政府に提言を続けています。

これからの活動は？

父子家庭の父親は、社会的な支援が整わず生活の困難を強いられていても、今まで見て見ぬふりをされてきたことが多いことに気づきました。女性が亡くなった場合の遺族基礎年金の改革など法の整備が出来ていないのです。女性の自立と同様に、父子が生活出来る体制を整える必要があると考えています。今までの女性の活動が10年なら、パパの活動も10年かかるかもしれないですね。

「離婚」の未然防止にも力を注ぎたいと思っています。それは、子どもの貧困にもつながりかねないからです。

パパも、ママと同じ悩みを持っています。孤立する人を少なくするようネットワークを広げ、次世代の子どもたちに父親の参画が当たり前である社会を創って行きたいです。

取材を終えて
まとめ

今回取材に応じていただいた方々は、現実を受け止め、当たり前のこととして、自分の行動を選び、さらに楽しさや喜び、達成感を感じていることが伝わります。

混沌としている社会状況の中で、今後一人ひとりが安心して心豊かに生活するための課題はたくさんありますが、働き方や個々の生活スタイルを男女共同参画の視点で見直してみることは今より、さらに喜びや楽しさを味わえることなのかもしれません。

「輝く人」

よりん彩スタッフが取材した、
今、旬の「輝く人」を紹介します。



出前おもしろ実験隊

丹松美由紀さん(鳥取大学工学部技術専門員)

「家庭から科学好きを育てよう!」丹松さんは、鳥取大学工学部の地域貢献活動プロジェクト「出前おもしろ実験隊」の隊長として学校や地域での出張実験室に出かけています。



大学では、化学系の技術職員として、教員・学生の研究に関わり、有機化合物や天然物などの分析をしたり、「学生実験」において、「分析」をテーマにした技術指導などを行っています。



「科学」というと難しいイメージがあるようですが、「空気には力がある」「静電気って不思議」「黒豆の色を鮮やかにするために鉄くぎを入れる」「紅茶にレモンを入れたら色が薄くなるのはなぜ?」など、当たり前だと思っていた身近なことに視点を当てると・・・あれ?そういえばどうしてかな?



科学に携わる女性は少ないようですが、丹松さんと同じような化学系の技術職員に女性は多く、「職業としても薬剤師や看護師など理系の女性もたくさんいる。身の周りのことを何でかなと考えることが科学だから」と・・・



言われて初めて意識すると私たちの生活には不思議がいっぱい!それが「科学」につながることもんだとわかります。

「職業としてこの分野を選んで、学生と関りながら仕事をするのは、刺激を受けておもしろく、常に新しい技術に触れることができ、やりがいがあって楽しい。」「学生時代はあまり好きな科目ではなかったが、子どもが小さいときに科学館で、米村デンジロウさん(サイエンスプロデューサーとしてメディアに出演)に会った。科学の不思議に感心し、楽しく引き付けられ、子どもとともにその場から離れられなくなった。体で感じる楽しさを味わった。」「そのことが、今の活動へのきっかけになったそうです。



「興味のない人もいるが、楽しいことなら誰でも続けていきたいと思う。その楽しさを届けたいし、楽しくなるきっかけを実験隊が届けていると思っている。大学からのバックアップがあるからこそ、地域にねざした活動ができる。」「今後も実験を通して子どもたちに、楽しさ、感動、気づき、将来への夢、を提供していきたい。この実験隊には、そんなメンバーがそろっている。」「子どもたちはいい顔するんですよ!」そういう、丹松さんも、キラッと輝いていました。



働きやすい職場づくりを進めている 鳥取県男女共同参画推進企業

第2回

「鳥取県うれしい職場ささえる大賞」で
奨励賞を受賞した2社を紹介します！

アサヒコンサルタント株式会社（鳥取市）

代表取締役社長

隅 万紀夫さん（左）

村尾 千晶さん（右）



1 職員が働きやすいための具体的取組みと現状

- ・研修会を実施し、「ワーク・ライフ・バランス」などの知識を得ている。
- ・いち早く、育児・介護の為の休暇、時間単位の有給休暇の取得や子の看護休暇等の社内規程を整備している。
- ・現在まで育児休暇の取得は男性0人であるが、女性の場合、ほとんどが1年の育児休暇を取得し、また、状況に応じて時短勤務制度を利用することができる（通常 8:30～17:30を9:30～16:30）。
- ・男性、女性問わず社員が働きやすい職場環境の整備を心がけている。
- ・事務室内には、心地よく働く環境づくりの一つとしてBGMを流したり、最新IT機器の使用によ

て、無駄を省くような時間の使い方（時間外労働の短縮）を実践している。

2 働きやすい制度を利用した従業員の方の生の声

「育休期間中には、人員の補充があり、気分的にも楽で、安心して育休がとれた。」「子どもに何かあるときでも、時間休を取るなど、社内に休みを取りやすい雰囲気がある。」

3 働きやすい制度を制定してから会社にとってプラスになった点

- ・制度を利用する事によって、社員間の信頼関係が高まり、仕事と家庭生活とのバランスを上手にとれていると考えている。
- ・労働環境等についても、労使が話し合ったうえで充実を図っている。そのコミュニケーションをとる中で労使との信頼関係も生まれ、それが社員ひとりひとりの生活確保、成長を支えていき、共に会社も発展していくことにつながっていくと考えている。
- ・この厳しい社会状況の中でも会社は存続と発展をしていかななくてはならない。今後、今以上にどのような取り組みができるか考え、実施していきたい。

鳥取県社会福祉協議会（鳥取市）

総務部主事

小林 明美さん（左）

総務部副部長

石黒 泉さん（右）



1 職員が働きやすいための具体的取組みと現状

- ・社内 LAN システム（社内ネットワーク）で、育児・介護休暇等の制度（例、子の看護休暇を5日から7日へ）の周知を図っている。
- ・休暇は、夏季休暇（9割の職員が取得）、ボランティア休暇、配偶者の出産休暇（特別有給休暇）などがあり、育休は女性の対象者のほとんどが取得しているが、今のところ男性取得者はいない。しかし、学校行事には男性職員も積極的に参加している様子である。
- ・労働時間については、所定労働時間内に生後1年

以内の乳児を育てる場合、1日2回、1回45分以内の特別有給休暇があり、保育園の送迎等に利用されている。また、子の小学校就学前まで1日6時間の育児短時間勤務を選択することができ、できるだけ時間外労働勤務や出張をしないように配慮されている。

2 働きやすい制度を利用した職員の方の生の声

「育休を取得しても、育休明けには、休業前と同様の職場につくことができた。」「短時間有給休暇も取りやすかった（時間単位で取ることが可能）。何よりも、家庭の状況により、休暇、育児に関して、個人の声が出しやすい環境である。」

3 今後に向けて

- ・働きやすい職場の実現のためには、個々の家庭の状況等に配慮していく必要がある。そのためにはも法や制度をよく理解し、職員には意識して声をかけるようにしていくなど、丁寧に発信していきたい。



心の相談が、東部・中部・西部で受けられるようになります

今までよりん彩センター相談室（中部）のみで実施していた、女性のための「心の相談」を東部相談室・西部相談室でも実施します。

“何だかうまくいかない” “もやもやする” “苦しい” など心のトラブルをそのままにいませんか？体の具合が悪くなったときに病院に行くように、心も適切なケアを待っています。安全な場所で、ゆっくりあなたのペースで話をし、何があなたをそうさせているのか整理し、自分の状態に気づき、次の一歩を踏み出しましょう。

相談日：第 1.3 水曜日 9:00 ~ 12:00
 第 2.4 水曜日 14:00 ~ 17:00
 時間：1人 60分程度 面接／予約制
 対応者：女性臨床心理士

秘密厳守・無料

その他の専門相談もご利用ください。

男性相談：毎月第 1 土曜日 センター相談室のみ
 1人 60分程度（面接・電話／予約制）
法律相談：東部・中部・西部の 3 か所で実施
 1人 30分程度（面接／予約制）
 相談日・相談場所はお問い合わせください

*専門相談はすべて予約制です。月により、開催場所、時間に変更がある場合がありますので、よりん彩各相談室にお問い合わせください。（連絡先は裏面をご覧ください）

オススメ
BOOK

よりん彩情報ライブラリー

理工系にチャレンジ!あなたの夢、応援します!

「理科って、ワクワクしておもしろい」子どもの頃そう思っていたのに、進路を決める時に女子の多くは文系を選んでしまいます。日本の研究者の女性割合はたった 13%です。「女子は理工系に向いていて、就職にも有利」「企業は女性の力を求めている」そんな先輩女性からのエールを紹介した図書を特集します。



素敵にサイエンス 企業編

中村立子 / 編・著 近代科学社 2008年

理工系に進み、企業で活躍する 6 人の女性。子どもの頃夢中になった実験、進路の迷い、研究が製品につながる喜び、仕事をしながらの子育てや家事について語ります。「研究者編」「先生編」もあります。



理系のお姉さんは苦手ですか？

内田麻里香 / 著 技術評論社 2011年

理系女性 10 人の人生カタログ。お花屋さん、コンサルタントやパーソナルカラー講師など、理系が活かせる意外な仕事を紹介。どこにでもいそうな先輩たちに、理系を身近に感じられます。



ハッピーテクノロジー

アネスタ 2012年

理工系女子学生のキャンパスライフを紹介する情報誌。専門の勉強や研究室、サークルなどの情報は、高校生のみならず、アドバイスする大人にも役立ちます。



文部科学省や内閣府は、女子高校生の理工系への進路選択を支援する取り組みを、各地の大学などと連携して行っています。報告書がたくさん出ています。

利用のご案内

- ・貸出点数 …… 図書 10冊、ビデオ・DVD 2 点
- ・貸出期間 …… 3 週間
- ・団体貸出 …… 100冊、8 週間の貸し出しが出来ます。
- ・よりん彩ホームページや「鳥取県図書館横断検索」で資料が探せます。
- ・県立図書館や市町村図書館に申し込み、取り寄せが出来ます。

ご利用ください セット図書貸出

「男女共同参画の基本を学ぶ」「ワーク・ライフ・バランス」「めざせイクメン」「DV防止」「ハラスメント防止」という 5 つのテーマのセット図書 (90 冊) を貸し出します。イベントで、男女共同参画に関する図書展示はいかがですか？



あなたの企画を応援します!

平成24年度よりん彩事業案内

よりん彩活動支援事業補助金

県内で活動する団体やグループ、企業、若者グループが、男女共同参画を学ぶ目的で、自ら企画し運営する講演会や学習会、調査研究に対して、補助金を交付します。(講師の謝金や旅費、会場費など)

- ① 公開講座
(広く一般に公開し50人以上の講座) 上限12万円
- ② 研修支援講座
(自治会、企業、PTA、親睦団体等が開催する学習会や研修会) 上限2万5千円
- ③ 若者企画講座
(県内の学生や若者が企画し、一般へも呼びかける講座) 上限5万円
- ④ 調査研究等事業
(男女共同参画に関する調査で、県民に還元できる内容のもの) 上限15万円

※詳しくは、よりん彩にお問い合わせください。
直接のお問い合わせ、または、ホームページをご覧ください。募集要項等随時掲載します。

男女共同参画推進人材育成協働事業(委託)

男女共同参画をすすめる人材育成講座等を企画し、よりん彩と協働して実施する団体を募集します。
委託料の上限は20万円

出前講座

地域・職場・学校・グループ・サークルなどの集まりに呼んでいただければ、よりん彩スタッフが、研修会や学習会、授業等を担当します。

よりん彩 記念日フォーラム2012開催!

~この際、よりん彩に行こう~

日時 2012年4月29日(日)
午前10時から午後3時30分

会場 倉吉未来中心アトリウム
セミナールーム1.2 よりん彩内

メインイベント
絵本ライブ&バルーンアート
スタンプラリー

よりん彩の開設を記念したイベントです。
ご家族でも、お一人でも楽しめます。

- よりん彩相談室へ
- 女子会しゃべり場
- イクジイセミナー
- やわらか生活
- バルーン教室
- こころ体ほぐし
- プレパパ教室
- カラオケ
- 絵本読み聞かせ
- よりん彩クイズ
- 飲食コーナー
- よりん彩出前講座体験
- キャラ弁作り

鳥取県男女共同参画センター よりん彩

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212-5 倉吉未来中心1階

電話(代表) 0858-23-3901 FAX0858-23-3989

HPアドレス <http://www.pref.tottori.lg.jp/yorinsai/> 電子メール yorinsai@pref.tottori.jp

「よりん彩」は県民皆さんの施設です。お気軽にお立ち寄りください

センター相談室(倉吉:よりん彩内)
電話: 0858-23-3939
火曜日~日曜日 午前9時~午後5時
土、日、祝日可(月曜が祝日の場合は翌日が休み)
専門相談(心の相談・男性相談・法律相談)も
行っています。各相談室にお問い合わせください。

東部相談室 (県庁第2庁舎1F) 電話: 0857-26-7887	西部相談室 (米子コンベンションセンター4F) 電話: 0859-33-3955
月曜日~金曜日 午前9時~正午、午後1時~5時 (第3木曜日は午前9時~11時30分)	

※広報紙「よりん彩」へのご意見、ご感想などをお寄せください。次号は平成24年7月発行予定です。
よりん彩ネット・電子メールの配信をご希望の方はよりん彩メールアドレスへご連絡ください。